

2009/11/20 付 建設工業新聞

【JCCA 本部】意見交換会の記事が掲載されました

高速道路会社 コンサル事業に関心

建コン協が協議内容説明
すみ分け議論も必要に

建設コンサルタツツ協
会（建コン協）の廣谷彰
彦会長ら幹部は18日の理
事会後の定例会員で、高
速道路会社5社と実施し
た意見交換会での協議内
容などについて説明し
た。廣谷会長は「民営化
以降、高速道路各社は、
建設コンサルタツツ事業
に関心を示している」と
述べ、入札制度について
の要望が主な議題である
現行の高速道路会社との
意見交換会が「大きな曲
がり角にきている」と認
識を示した。

高速道路会社との意見
交換会は10月7日に中日
本高速、16日に東日本高
速、27日に西日本高速、
11月6日に阪神高速、16
日に首都高速のスケジュ
ールで実施した。建コン
協によると今回の意見交
換では▽技術力を評価し
た選定方法▽建設コンサル
タツツの新たな役割▽
品質確保の3点を主な
テーマに議論した。

技術力による選定では
中日本高速と東日本高速
がプロポーサル方式を積
極的に採用している一方
で、西日本高速、阪神高
速、首都高速の3社は総
合評価落札方式が主体に
なっているなど会社によ
って対応が違ってきてい
るといふ。具体的には西
日本高速が、総合評価落
札方式で技術評価と価格
評価の比重を1対2と、
技術評価の比重を国より
も低く設定していると指
摘改善を求めた。ただ、
全体的には民営化により
業者選定の自由度が高ま
ったため、国などの公共
発注機関に比べると発注
にあたって技術力を前向
きに評価している様子だ
と述べている。

各社とも低価格入札対
策を講じていないことか
ら、総合評価落札方式で
も落札率が70%前後にな
るなど「どうしても価格
競争にならなかつた」（建
コン協）。このため、建
コン協として低価格入札対
策を実施するよう要望し
た。

新たな建設コンサルタ
ツツの役割をテーマとし
た議論では、技術者を多
数抱える高速道路会社が
調査・設計を含めた道路
の維持管理業務などを新
たな事業として検討して
いることが話し合いを通
じて浮き彫りになったと
している。事業化にあた
って各社とも自らが管理
する高速道路だけでなく、
他社の路線や一般道
も視野に入れており、今
後は既存の建設コンサル
タツツの事業と重なるケ
ースも想定される。建設
コンサルタツツなどの
共同研究に意欲的な会社
もあり、事業化に向けて
具体的な動きも始めて
いる。

「将来に備えて高速道
路会社の事業と建設コン
サルタツツの事業のすみ
分けについて話し合い、こ
とも必要になるだろう」（
大島一哉副会長）と今
後はこうした事業につい
ても意見交換していって
考えを示した。